

鹿児島県とシンガポールで続く青少年交流 ～地域における次代のリーダー育成を目指して～

シンガポール事務所

鹿児島県は、シンガポールと過去 30 年以上にわたり幅広い交流を続けています。継続して行っている交流の 1 つが青少年交流ですが、今年度は鹿児島県の青少年団がシンガポールを訪問し、現地の関係機関や青少年団を訪問し相互交流を図りました。

1 鹿児島県とシンガポールの交流

鹿児島県は 1982 年から鹿児島・シンガポール交流会議を開催しており、今年 1 月には第 17 回目となる交流会議を鹿児島県にて実施したところです。当会議での合意に基づき、両国間では経済や観光、芸術・文化、青少年交流が行われています。

2 継続した青少年交流事業の実施

鹿児島県とシンガポールの青少年交流事業はこれまで継続して実施されており、2002 年以降は毎年交互に青少年団を派遣し、交流を重ねています。当事業は次代を担う青少年リーダーを育成することを目指しており、シンガポールへの同県青少年団の派遣やシンガポール青少年団の受入による交流活動を通じて、両国の青少年の国際的視野を広げ、国際親善を推進する原動力を培うとともに、得られた経験を地域での社会参加活動に還元することとしています。

また同県と関わりの深い香港においても、シンガポールと同じく青少年交流事業が継続して実施されています。

3 次代の青少年リーダーの育成を目指して

今回は鹿児島県から 15 名の青少年団が 10 月 26 日から 31 日まで香港を、10 月 31 日から 11 月 5 日にかけてシンガポールを訪問しました。シンガポールでは、受入側のシンガポール人民協会（PA）にて行程や交流プログラムがセットされ、関係機関への訪問及び各種交流が行われました。

（1）NACLI への訪問及び意見交換

NACLI は、シンガポールの各地域に設置されているコミュニティクラブのリーダーを育成する研修施設です。



NACLI のスタッフとの意見交換

現在コミュニティクラブは地域ごとに 107 箇所あり、それぞれ文化や生涯教育、青少年育成などの市民活動の場として機能しています。様々なイベントも開催しており、地域住民への帰属意識を育成することや、異なる民族間の融合にも貢献していると言われます。NACLI では、地域社会での献身的精神や高い国民意識を有するリーダーを育成するため、ワークショップやフォーラム、グループワーク等の多様な研修とその施設を提供しています。NACLI 内にはこれまでの地域コミュニティの変遷をたどるギャラリーがあり、今回はスタッフの説明を受けながら、如何にして民族間調和を図り、地域社会の一体性を生み出しているかを学びました。意見交換では、地域におけるコミュニティクラブの役割や取り組み内容、地域のリーダーとしての心構えなどについて活発に意見が交わされました。

(2) ITE ウェストカレッジへの訪問及び交流

技術教育学院 (ITE) ウェストカレッジは 2011 年 4 月に開校し、現在は 7,800 名の学生と 710 名の職員が在籍しています。電気・電子や IT テクノロジー、経営、調理師、ホスピタリティーなどの学科があり、計 40 のコースが提供されています。

今回は各学科で使用されているトレーニング用のキッチンやレストラン、ホテルなどの施設を見学しながら学生や先生と意見を交わしました。また県の青少年団と ITE の学生で、両国の観光をテーマとしたセッションも実施し、事前に準備したパワーポイントや資料を元にそれぞれ説明し意見交換しました。県側は「いかにしてリピーターの旅行者を獲得するか」をテーマに、シンガポールと対比しながら日本の状況を報告するとともに、鹿児島県が有する魅力を紹介しました。リピーターを増やすためには、農業体験などを通して地域住民とふれあいをもつこと、旅行者に対し次も訪問させたいと思わせるおもてなしや体験が重要といった意見が出され、積極的な議論が行われました。



ITE の学生とのセッション

4 今後の交流について

県の青少年団の団員からは、「将来の夢ややりたいことが見つかった」、「地域でこの経験を生かしたい」、「世界に出てもっと勉強がしたい」との声が聞かれました。また、当事業の実施に当たっては PA のスタッフだけでなく、数名のボランティアが当事業をサポートしていました。ボランティアの方々は、過去にこの事業を通じて鹿児島県



PA のスタッフの方々と記念撮影

へ訪問したことがあり、鹿児島県に少しでも貢献するために参加されたそうです。当事業を継続実施してきたことによるつながりの深さを実感しました。

2015年度はシンガポールの青少年団を鹿児島県に受け入れる予定です。今後も鹿児島県とシンガポール相互の青少年交流を通じて、両国の地域社会におけるリーダー育成が図られるとともに、将来彼らが地域社会のリーダーとして活躍することを期待しています。

(三原所長補佐 鹿児島県派遣)

